

IV. 項目ごとの記述

令和元年度は、「★」印を重点に改善に注力し、多くは改善が進んだが充分でない項目もある。

(1). 教育理念・目標	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
B. 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
C. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
D. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
E. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

現状
課題
改善後の
事項記

A. 建学の精神に基づき、学校方針を掲げ、さらに平成30年度より3つのポリシーも周知している。
B. 専門的特化分野の明確化については、令和元年度からプライダル1学科に集約し、新カリキュラムを導入した。
C. 将来構想として学校の教育と財務の適正規模を図ることが最重要である。そのために令和元年度より募集定員を80名から60名に変更した。
D. 入学オリエンテーションや保護者説明会、及び事あるごとに伝えており、理解の浸透が図れている。
E. 学校関係者評価委員会で業界ニーズを確認し、学用品や学内整備などに活かしている。

C. 定員が充足できておらず、将来構想は今後の募集にかかっている。

職業教育を掲げ、産学連携による職業実践教育の展開を進める。令和3年度からのプロフェッショナルセミナー導入に向けてR2年度は準備を進めることとする。

・学生便覧(建学の精神・学生心得・3つのポリシーなど)

(2). 学校運営	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
B. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
C. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
D. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
E. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
F. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
G. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
H. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

現状
課題
改善後の
事項記

A. 建学の精神、学校方針に沿って学校運営を行っている。
B. 各目標に沿った年度ごとの事業計画がある。
C. 明確化し、機能している。
D. 整備している。
E. F. 整備している。
G. ホームページ、ブログなどに公表している。シラバスは公開している。
H. 効率化、努力を継続中である。

①専任教員の質の向上
②入学から卒業までの学生データを一元管理するシステムが必要である。
特色ある職業教育の形を作る。そのために「プロフェッショナルセミナー」を活用する。

令和元年度 自己点検評価報告書

(3). 教育活動		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	A. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
	B. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
	C. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
	D. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
	E. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
	F. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
	G. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
	H. 職業教育に対する外部関係者の評価を取り入れているか	4	3	2	1
	I. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
★	J. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
★	K. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
★	L. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
	M. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
	N. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

現状

A. 建学の精神、学校方針に沿ったカリキュラムを平成29年度より稼働している。また平成31年度より学則変更に伴い教育課程を変更する。
 B. 教育課程表に展開される科目に明記。
 C. 編成済み。
 D. 職業教育は体系化し、内容も充実させている。
 E. 学校関係者評価委員会など意見を収集している。
 F. 体系的に位置付けている。
 G. 学内・学園内で実施しており、評価制度もある。
 H. 学校関係者評価委員会において検討している。
 I. 基準を明確化の上、学生便覧で学生周知している。
 J. 指定検定受験は任意とし、検定取得数から合格率の向上にシフトした。平成29年度新カリキュラムにおいて体系化し成果を出している。
 K. 専任・非常勤の新規採用・入れ替えを含め、質の向上に努めており、授業の精度は上がってきているがまだ充分ではない。
 L. 特に非常勤講師の採用において実施中であり、マネジメントの質は向上した。
 M. 先端的な知識などは非常勤の分野とし、授業見学・授業評価を継続しているが、研修等を行える時間が確保できていない。
 N. 担任力強化・キャリア教育強化のための研修を開催できていない。

課題

①まだ、一部の教員に、専任教員の教員としての資質が不十分な者がいる。
 ②授業評価・研修後の活かし方を検討する。

改善後の

勤続の短い教員が多いため、学校運営、クラスマネジメント、学生管理などについて早急に体制を確立する。R2年度よりブライダルプランナー経験者を採用し、ブライダル経験者が3名となった。この分野において特色ある職業教育を確立する。

特記事項

専任が中心となって非常勤講師を管理する体制を確立している。

(4). 学修成果		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★	A. 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
★	B. 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
★	C. 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1

令和元年度 自己点検評価報告書

D. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
E. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

現状
 課題
 今後の改善方策
 特記事項

A. 就職実績及び企業との信頼関係ともに向上している。昨年度、卒業生全員が学習分野での就職を決定した。
 B. 資格取得率向上は一昨年度飛躍的に向上したが、担当教員の努力に頼っており、学校システムにまでは至っていない。
 C. 昨年度退学者ゼロ。事前フォローにより退学を抑制した。
 D. 情報収集活動を強化している。
 E. 卒業生を学校関係者評価委員に入れ意見を教育活動の改善に取り入れた。校友会は開催されたが内容の工夫が必要である。

①希望企業、希望職種での就職の実現
 ②就職後定着率を把握する仕組みがない。

産学連携授業展開により、ブライダル業界との関係を強化し、本校のブランディングとともに学生の就職活動を支援する。

(5). 学生支援	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
A. 就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
B. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
C. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
D. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
E. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
F. 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
G. 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
H. 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
I. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
J. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

現状
 課題
 今後の改善方策
 特記事項

A. 各業界人による職業講話を7回実施した。又、内定先や就活状況をPCフォルダ及び職員会議で共有した。
 B. 小規模校であり、専任全員が全学生の顔と名前を覚えており、きめ細かな学生相談に応じている。
 C. 経済支援奨学金を整備している。
 D. 年1回の健康診断を実施している。
 E. 学生たちの自主的活動を支援する環境を整備している。年度によりサークル活動が学生により準備される。
 G. 従来からの保護者会に加え、入学前保護者説明会、新2年生保護者説明会を設け、保護者との連携強化に努めている。
 H. 教員と学生との関係は卒業後も継続され、常に情報収集はしている。
 I. 学校関係者評価委員会などから社会人ニーズを収集し、教育に反映する努力を行っている。
 J. 学園姉妹校(高校)の生徒を体験入学に呼び、職業体験の場を提供している。

卒業生との関係強化

①教員対象キャリア教育の研修会を実施する。
 ②来客用紙を整備し、話した内容を記入し、ファイリングする。

・学生便覧(学生生活に関する一般的注意事項について・証明書届出書願出書等)
 ・学生便覧29～31ページ(奨学金給付細則)
 ・就職指導を体系化した。

(6). 教育環境	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
B. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
C. 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

現状
課題
今後の改善方
事項記

A. 4・5F:普通教室にプロジェクターを設置した。
B. 校内施設設備において、対応ができない箇所を、社会研修や模擬挙式・披露宴(3回/年)を学外施設を利用し、補っている。インターンシップを実施した。海外研修は希望者が少なく最少催行人員にならなかったため、実施せず。
C. 消防計画に基づき、消防設備点検の実施(2回/年)、防災訓練(避難訓練、消火訓練、防災器具の取扱)を実施している。また、防災用品についても、①AED ②非常食・水を備えている。防災マニュアルを整備した。

①学内資源の整備、充実
②学外資源の活用

①学内施設の計画的な補充と整備:無線LANの整備 平成30年各階教室に1台ずつプロジェクターを設置し、授業を展開した。
②活用できる学外資源情報の収集と実地確認:R元年度産学連携を進める。
③開学10年が経過し、設備更新計画を作成した。
④図書の利用率が低いため、雑誌等の充実を図る。

・学生便覧(台風、公共交通機関のストライキ時の休講について・東海地震に関する対応について)
・危機管理マニュアルの更新した。

(7). 学生の受入れ募集	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★ A. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
B. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
C. 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

現状
課題
今後の改善方

A-①. 学生募集は、愛知県専修学校各種学校連合会の取り決めに基づき、志願者の立場に立って適切、適正な情報提供を行っている。
A-②. 募集方法としては、近年、SNS(ブログ、ツイッター)を中心に情報発信を週2~3回程度行っている。入学案内、各種案内書、各種リーフレット、ホームページ等においては、事実を適切に分かりやすく伝えることに努めている。出願受付期間についても取り決めに従った適正なものとなっている。
A-③. 募集プロジェクト会議を立ち上げ、教職員一丸となり募集方法を検討しており、速やかに実行できるものは行っているが、学校の目玉となるような募集案が策定されていない。
B. 就職実績や資格取得実績については、曖昧な数値や表現で伝えるのではなく、具体的に何年度の数値であるのか「企業名」、「資格名」も表示し、志願者が誤解しないような伝え方を心掛けている。また、実務、技能の教育成果は、文化祭や模擬サロン(卒業制作)、模擬挙式・披露宴(年3回)において、不特定多数の外部者を招き実施をすることで、外部からのチェックも同時に受けている。検定試験合格率はタイムリー、また継続的に発信されていない。
C. 学納金及び奨学制度については、社会情勢を踏まえ毎年検討を重ねるとともに同分野他校とも比較を行っている。表示方法においても、「別途徴収」等の不明確な言葉を使用せず、2年間で必要な学納金を明確に表示するよう努めている。

A-①. 入試種別において、種類、出願期間、出願条件が複雑なため、今後、志願者の側に立った入試方法へ改善する必要がある。→H31年度より入試方法を改善し、より明確になった。
A-②. SNSによる情報発信及び精度が不十分である。特にInstagramの登校頻度が少ない。
B. 検定合格率・平均点が飛躍的に上がっているため、タイムリーにSNSに投稿するべきである。
C. 学納金(教材費、行事費)については、2年生の卒業時に返金を行う際、学科・コースにより多額となるケースがある。

A-①. 現状ある7つの入試形態(「指定校推薦」、「特別推薦」、「特別自己推薦」、「学校推薦」、「自己推薦」、「AO入学」、「一般入学」)を精査し、志願者が理解しやすい入試方法にする。→H31年度より入試方法を改善し、より明確になった。
A-②. SNSによる情報発信を毎日行う。教育内容だけでなく、卒業生状況、検定合格など良い情報は結果も発信する。
A-③. 高校訪問の訪問先を精査する
C. 専任教員、非常勤講師が連携し、教材の重複を無くし、必要最小限の教材選定に努める。イベントについても、社会情勢を加味した上、教育効果が低い内容のイベントを入れ替える等し、適正な行事費の設定に努める。

特
項
記
事

入試形態の簡素化を実現した。

(8). 財務	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★ A. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
B. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
C. 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
D. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

現
状

A. 開校(平成22年度)から5年、収支均衡までは、もう一步という支出超過の状況が続いていたが、平成28年度から、収支差額がマイナスとなり支出超過となっている。
 B. 予算については、理事会で決定された事業計画大綱及び予算編成方針に基づき、校内において予算申請書を作成し、管理者において精査の上、法人事務局に提出する。その後、法人事務局との折衝の後、予算原案を作成し、3月末に開催される評議員会及び理事会の議を経て決定する。執行については、経理責任者が、学園規程に基づき、予算の範囲内で適切な処理を行う。
 C. 公認会計士(実地監査1回、書類監査1回)及び監事により実施している。
 D. 法人において「私立学校法」に定められた財務書類を学園規程に基づき、学生、保護者、卒業生、その他利害関係者の請求に応じ、閲覧を供している。また、法人広報誌「Commu」に掲載するとともに、法人のホームページ上でも公開をしている。

課
題

令和元度も、支出超過になり、中長期的にも財務基盤を安定させる必要がある。
 戦略的な募集が課題である。

今
後
の
改
善
特
項
記
事

安定した入学生の確保と退学者の防止に努める。支出では、非常勤講師の人件費を抑制していくことが必要とされる。募集は学校の戦略としてチーム化する。

(9). 法令等の遵守	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
B. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
C. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
D. 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

現
状

A. 学校教育法、専修学校設置基準等の遵守に関しては、学則を定め、法令に沿った学校運営を行っている。
 B. 個人情報の保護に関して、学園で組織する「個人情報保護委員会(組織の長及び事務長を中心)」で適正化を図っている。また、学園規程(個人情報の保護に関する規程、特定個人情報の取扱いに関する規程)、学校規程(個人情報保護に関する規程)を整備し、規程に基づき適正な運用を行っている。
 C. D. 平成30年度自己評価報告書を冊子にし、学園本部及び教職員関係者に配付を行った。また、学校関係者評価を含め、本校のホームページにも掲載し、広く公表を行っている。

課
題

A. 各法令については、毎年、変更が生じるため、常に見直しを行い、適正な運営をしていく必要がある。
 C. 自己評価結果について、改善項目を常に教職員が意識し、業務に取り組めるような方策が必要である。

今
後
の
改
善
特
項
記
事

A. 学内規程及び運用ルールは、常に改善を行う。
 B. 個人情報の取り決めだけでなく、教職員のパソコンやWebの操作方法等もルール化する必要がある。
 C. 改善計画については、「いつ」、「誰が」、「どうやって」実施していくかを詳細に計画を立て、職員会議等で状況報告をする等していく必要がある。

令和元年度 自己点検評価報告書

(10). 社会貢献・地域貢献	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
B. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
C. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

現状	A-①. 平成27年度私立学校施設整備費補助金エコキャンパス推進事業を活用し、屋上に太陽光パネルを設置することにより、地球温暖化対策に貢献できるよう学校全体で省エネに取り組んでいる。年々、光熱水費の使用量が減少してきている。 A-②. 学校祭や年2回の学生サロンでは、地域に学校を開放し、お客様として招き、日頃の教育成果をサービスとして提供している。リピーターのお客様もでき始めている。 A-③. 現状ではやっていない。
課題	社会・地域貢献及びボランティア活動は、現状では受身の体制であるため、本校から積極的な取り組みや発信ができるようにする必要があるが手つかずである。
今後の善方策	献血など、実施内容を考案し、年間行事に入れるよう努める。
特記事項	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1)具体的な目標

- ①ブライダルならびにトータルビューティー分野と本校の社会的な認知度を高め、募集活動を有利に展開できるようにする。
- ②社会のニーズを取り入れた教育を実践し、社会に貢献できる人材を排出する。
- ③継続的な学校運営ができるよう適正規模の確認と確立に努める。

(2)学校評価の実施状況

- ①令和元年 5月・10月 自己評価実施
- ②令和元年 6月・11月 学校関係者評価委員会実施
 - ・新項目による評価の実施と分析
 - ・カリキュラムに対する評価
- ③理事長(法人本部)報告
- ④自己評価のホームページへのアップ